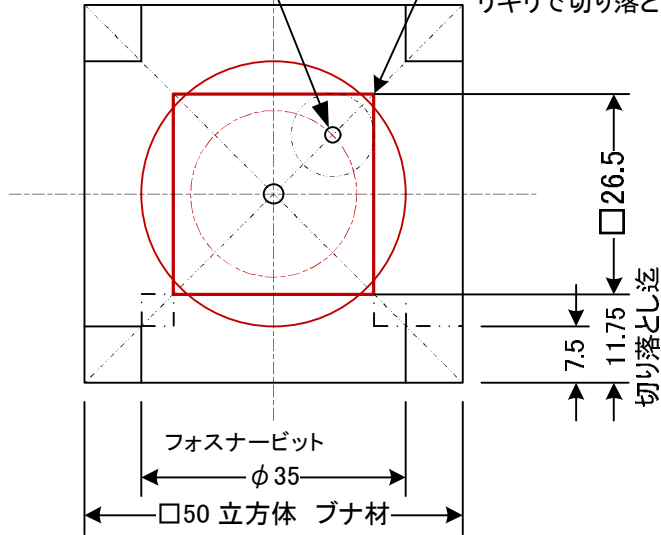


サイコロ目3と5の加工(工程⑤)
尖塔歯先ドリルでモミ付け
P.C.D. 22

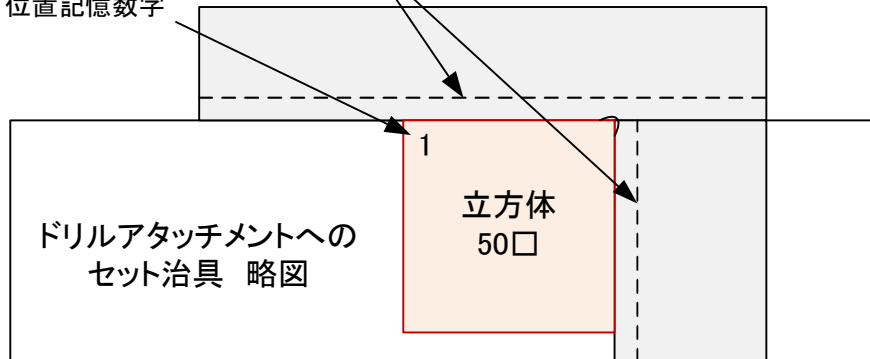
テスト結果、フォスナービットの周囲切先が平歯面より少し出っ張っている
ので、□26.5を残せばギリギリで切り落とせる。



素材:カインズ @125
(測定 50.1□~50□)

底は逃げを付けておく
(切粉の詰まり避け)

位置記憶数字



〈立方体にサイコロを閉じ込める工程〉

中に取り残されるサイコロに目を入れない場合は、⑤の手順を飛ばす。

- ① 立方体素材の寸法と直角の確認
□50の寸法精度が悪い時は、フォスナービットでの切り落とし値を加減する。
(中に取り残されるサイコロは、いびつでは面白くないの精度は重要)
- ② ドリルアタッチメントにセット治具を取り付け、素材のどの面にもビットが何時も正確に降りるようにする。
- ③ 素材の六面の左上部に、位置記憶の為に1から6まで番号を記入しておく。
- ④ 番号1の面をセットし、フォスナービットで掘り込み、目標の切り落とし深さ11.75の少し手前まで(11mm位)、1面から6面まで全て彫り込んでみる。
(サイコロの稜角だけが、まだしっかり繋がった状態になる。)
- ⑤ サイコロに目を入れたい場合は、この段階で尖塔歯先ドリルで、サイコロ目 3と5をモミつけておくとよい。
(このとき、全ての面には、フォスナービットのセンターが付いて、サイコロ目の1に見えるので、他の目を追加するには奇数しかない。対面に同じ目を刻むとよい。但し、中心の穴を埋めれば、2・4・6の目を付けることも可能)
- ⑥ サイコロが切り残された稜角の様子を見ながら、彫り込み深さを11.75に近づくまで微調整して、サイコロを切り落とす。(最終的にはカッターナイフなどで切り離す)
- ⑦ サンドペーパーで仕上げて完成

〈サイコロが取り出せない理由〉

- * 26.5□のサイコロの対角距離 $26.5 \times \sqrt{2} = \text{約 } 37.48$
- * 37.48は、35φの穴を絶対に通らない。